

【主な質問・意見】

各会場で次のような質問や意見が出されました。

東川生活センター

Q 学校が統合して子供たちも父兄も喜んでるので安心して。

A 小学校の直近の学力テストにおいて、全道平均を上回る結果となりました。これは、子供たちが切磋琢磨できる環境になったことが大きいと分析しています。また、教職員においても意識が変わり、指導力を磨いています。活力ある学校になりつつあります。

スクールバスについては、「安心・安全」を第1としてやっています。月1回、委託先の会社とも全体会議を開いて情報交換や問題の処理に当たっていますので、何かありましたらいつでもおっしゃってください。

美宇生活センター

Q 子供等の病気等急な事態に保護者が対応するためには地域に保育所があることが望ましく、ぜひ美宇保育所存続という方向で検討いただきたい。

A 地域保育所につきましては、開設要件を定めていますので、その開設要件を満たしている間は開設していきます。また、幼児教育と保育の一貫した体制づくりを求める声が新冠町でも大きくなってきていますが、新冠町ではそういった施設がないため、他町に

通っている子供が多く、このままでは町民の方々に迷惑を掛けるということと、そういった施設を町内に整備したいと考えております。資金の目途と場所を選定しながら、できるだけ早くとりかかりたいと考えています。

Q 町内小学校の再統合は考えていますか。

A 2校を1校にする考えはありません。理由は3点ほどあります。1点目は子供たちが切磋琢磨できる環境になったこと。また、コミュニケーションや生活を養うためにはある程度の集団が必要です。教員の指導力向上にもつながっています。

2点目は1つの小学校だと9年間人間関係が固定化されることです。この状況で、いじめや不登校が起きるとそれは不幸なことです。ですから9年間人間関係を固定化させないということ。3点目はスクールバスの運行です。

1校になった場合、スクールバスの運行に無理がかかります。以上を踏まえ、現状では2校のメリットが生かされていると考えていますので、1校に再統合するという考えは持っていません。

里平生活センター

Q 実質公債比率は上がっているのか。

A まだ若干ありますが、23年度以降ぐつと下がります。

泊津生活館

Q 3年前、新冠町は合併を延期すると言っていた。合併しないと決まるといらない。今回の町民運動の流れの中で、新冠町の財政状況を町から説明してもらったが、新ひだか町の財政状況がわからない中で、住民は判断できない。そのあたりの町の対応は。

A 私ども議論のテーブルについていないので、新ひだか町の財政状況はわかりません。公表されている部分（実質公債比率・将来負担比率等）はわかりませんが、それ以外の細かい部分ばかりありません。

署名活動は住民の権利でありますので、それに対して、こうして欲しいと言いうことはまずいかなと思っ



すので、一切、接触はしていません。このことは議会の特別委員会でも同じことは言われましたが、こういうことであると説明しました。住民の方には冷静な判断をして欲しいと思います。

高江農村環境改善センター

Q 農家が自分の息子たちに農業を継承できないと思っている。それほど、農業を取り巻く環境は良くない。そういった現状の中、一次産業を中心とした産業振興策についてお聞かせ願いたい。

A 現状ではやれることはやっているつもりですが、財政状況も厳しいので、なかなか出来ない部分もあります。できれば皆さんから、こういうことをやってみてはどうかというような提案があればお聞きしたいと思っています。一次産業の現場で働くみなさんの生の声を聞きたいということです。その一環として、農協サイドと農業サミットを行い、情報交換をしています。そこで、後継者対策や新規就農対策や資金の確保などできる範囲内で町も支援しようという話合っています。昨年の新冠町の農業の状況を見ますと、あまり芳しい状況ではありません。町ができるものがあればできるものからやっていきたいと思えます。

大狩部婦人ホーム

Q 限界集落に対して、町として今後の対策をお話し願いたい。止むを得な

いと考えているのか。

A 限界集落というのは65歳以上が50%を占める地域を一般的に言うようですが、そのような状態になると、地域の集落としての機能が果たせなくなる、自治会活動ができなくなる、コミュニティ活動ができなくなるといった問題が出てくるのが想定されます。それに対して、町は4月からそれぞれの地域を担当する職員を配置する地域担当職員制度をスタートさせ、自治会と担当職員との間で、どんな問題があるのか、どうすれば自治会活動ができるのか等を相談して、町がどのようなお手伝いができるのか、できるものからやっていきたいと考えています。

**役場2011会議室**

Q 診療所になつての職員体制は、診療科目に外科が入っているが、どの程度対処できるのか。

A 現在の職員体制から比較すると、看護師と看護補助者が大きく減ることになります。一部専門職も減りますが、大きくは看護部門が減ることになります。外科は現在、休止という形で進めています。今後も24時間体制は維持することとしておりますが、その場合、外科対応の患者さんも出てくると思います。重篤な場合は、他院との連携を図って対応したいと考えております。



**万世生活センター**

Q 市になつたら税金だとかがあるのか。町としてやっていけるのであれば合併しない方がよいのでは。

A 実際に負担が多くなるか、少なくとも今は中身をつめてみないとわかりません。今回の合併の動きは日高に市をつくるのが目的です。来年3月までが市になれる期限ですが、期限が来るからといって、遮二無二にやるというのは賛成できません。

**緑丘生活センター**

Q 今の町民が利用している状況として、大きな病気だとかになると苦小牧や札幌に簡単に行くようになってい

が、将来的に町が大きな病院への送迎をしてくれるというか、搬送してくれるようなシステムがあれば安心して生活できるのではないかと思っているのですが、

A 今は病院の主治医の指示で治療を受けています。大きな病院に行く場合には、主治医に紹介状を書いてもらって行くのが、一番効率的なシステムだと思います。いきなり、大きな病院に行くのは時間もかかりますし、診てもらえない時もあります。国保病院でも部分的に、循環器系などはサテライト方式をとって、札幌から先生に来てもらって診ていただいています。全体的分野ではそういうシステムになっていません。全てというのは、なかなか難しい部分があります。

**Q 人口減少と町の自立について**

A 人口が減ってきているのは事実で、この一年で95人ほど減っています。これは小学校統合の影響で減ったということですが、それ以降は定住対策で人口減少に歯止めをかけています。人口は地方交付税の関係もあるので、人口は1人でも多く確保しなければと思っています。財政状況は今後も厳しい推計となっていますので、できるだけ単年度収支の赤字を少なくしていかなければならないと思っています。合併についても考えていかなければと思っておりますが、自立できる間は、経費の節減に努めていきたいと考えています。

**若園生活館**

Q 特別養護老人ホームも民間に移行すると聞いたが、町のバックアップが将来にわたってあるのか

A 特別養護老人ホームの運営は将来的に民間（指定管理者）にお願いしたいと考えています。特別養護老人ホームの運営は最初の内は赤字だったので、人件費が上がって、赤字になっていますので、そういうことも含めて民間の方にお願したいと思っております。また、民間の方でもこういう分野をやりたいという方が出てきていますので、町としても支援していきたいと思えます。

**節婦生活館**

Q 子供を産みやすくするために、お金をかけなくてもできる支援があるのか。

A その対応は考えていかなければいけないことだと思っています。昔の状況とは時代がだいぶ変わってきていて、医師等の確保が非常に難しい状況です。町としては、そういった状況でありますので、妊婦検診について助成回数10回を増やして支援しているところなんです。ただ、町として、どこの病院で産んでくださいというようなことは言えませんので、保健師と相談しながら産みやすい環境を選択できるようにしていきたいと考えています。